

学園祭実行委員会に関わる学生の動機の研究

山崎 萌衣奈

筑波大学の学園祭実行委員会是在籍期間が 2 年程度であり、人の入れ替わりが激しいなかで学園祭の成功という大きな目標を毎年達成する必要がある。そのため、組織の運営は加入動機や継続理由、人間関係などに左右されることが多い。

谷田 (2001) は大学生のボランティア活動の加入および継続の動機に学び、視野の拡大、人間関係、やりがいの強さを挙げ、高田 (2017) はサークル活動への加入動機に活動内容、人間関係、活動の緩さを挙げた。これに対して学園祭実行委員会は両者の活動の境界線に位置しているため、両者の研究の加入動機の部分には適応できない側面が多いと思われる。

本研究では、加入動機を聞くなかで、委員会に加入する人には一定の特徴があり、さらに委員会での活動を継続する人としない人に違いがあることが予想されたため、それらを明らかにすることを目的とし、半構造化インタビューによる質的調査を行った。調査対象者は筑波大学の学園祭実行委員会に所属していた 12 人であり、このうち 6 人が執行代（ここでは 2 年生）まで委員会を継続し、6 人は執行代を経験する前に委員会を辞めている。また比較の対象として信州大学の学生 1 人にも調査を行った。

調査結果により、委員会への加入動機は高校までの生徒会活動等の類似の経験があった人が多く、委員会の活動を続けた人、続けなかったが活動への未練があった人は生徒会等の経験を直接の理由に挙げていた。生徒会等に興味を持ったきっかけでは、家族の影響、やったことのない活動への興味、人間関係などが挙げられた。また調査対象者のほとんどが委員会や部活で自分が楽しむことより周りを楽しませることを優先する裏方意識が見られた。

委員会の活動を継続しなかった人には、責任のある仕事を好まない人が多く、ほとんどの人は委員会への不満を理由としていないが、委員会への批判を理由とした人も一人いた。両者ともに、継続するかどうかを判断したときには委員会以外に注力したい活動があった。これは執行代である 2 年生はほとんどが役職につき活動への負担が大きいことから他の団体との兼任が難しく、その観点から活動が選択されたのではないかと考えられる。

委員会に対しての裏方意識は全ての人を持っていた。委員長や企画を担当する人は裏方でないとする人もいたが、実際に企画を担当した人の多くは自らを裏方だと捉えていた。

委員会の加入理由として重要なことは、人間関係よりも高校時代までの生徒会活動等での裏方の活動に向いていると感じたこと、運営の活動が楽しいと思ったことである。学園祭実行委員会は学園祭を支える活動であり、そのために時には自分の時間を削り責任のある仕事や、ミーティング等のやりたいこと以外の活動もする必要がある。また自分よりも周囲を優先する行動を選択し、人の調和を重視し周囲をまとめる人に適していることから、生徒会等の経験者が多いのではないかと考えられる。

(指導教員 後藤嘉宏)